

解答・解説

凡例および注意点

① = 大問番号 ❶ = 段落番号 ❶ = 文番号

解答部

_____ = 正解部分
() = 省略可能
[] = 直前の語句との入れ換え可能

解説部

☞ = 主語 ☞ = 動詞 ☞ = 目的語 ☞ = 副詞 など
「 」 = 訳（基本は直訳）、あるいは強調
() = 省略可能、あるいは補足・別表現
【語句】 = 該当箇所の重要語句
[|] = 発音。左側が発音記号。右側が目安となるカタカナ表記で、ゴシック体はアクセント
⇒ = 派生語・反意語 など
☞ = 例文。暗唱できるようになることを強くお勧めする
【文法】 = 該当箇所の重要文法事項

日本語訳部

文構造にできるだけ忠実に、自然な日本語を心がけた

重要語句確認部

☞ = 名詞 ☞ = 動詞 ☞ = 形容詞 ☞ = 副詞 など
☞ = チェック欄
[] = 発音記号
「 」 = 意味

解答

1

問 1 現代人は約 20 万年前から存在してきたが、その大半を狩猟採集民として生活しており、農業革命を経て定住生活を始め、それによって都市が発展したのは、わずか約 1 万 2 千年前以降のことだから。

問 2 私たちの感情や本能は、より定住的な農工的生活様式によりむしろ、狩猟採集民的生活様式に適している。

問 3 (A)

問 4 (C)

問 5 (B)

問 6 (B)、(D)、(G) (順不同)

解説

凡例： ❶ = 段落番号、❷ = 文番号

問 1 日本語で説明する記述問題。自分の言葉で説明する記述問題においては、問題文をきちんと理解した上で、論理的に過不足なく、その記述だけで説明が完結するように心がけて解答する。もっとも大切なのは、自然な日本語で、きちんと読める字で書くこと。字がきれいでも、丁寧に書く。採点者に対する意識や思いやりをおろそかにすると、採点すらしてもらえない。

該当箇所は ❶ ❷ the growth of cities is a comparatively recent development 「都市の成長は比較的最近の発達である」だから、この内容を具体的に説明する部分を根拠として、第 1、第 2 パラグラフの内容に基づいて簡潔に述べる。まず、都市の成長については ❷ ❶ The development of cities only began 「都市の発展はようやく始まった」 following the agricultural revolution, 「農業革命に続いて」 which took place in different parts of the world from about 12,000 years ago. 「それ（農業革命）は、約 1 万 2 千年前から、世界のさまざまなところで起こった」に示されている。「1 万 2 千年前」が比較的最近ということになるので、それと比較すべき部分は、「20 万年前」を含む、❶ ❷ ❸ Modern humans (中略) have been around for about 200,000 years. 「現代人は約 20 万年間存在してきた。」 For the vast majority of that time, 「その期間の圧倒的に長い間」 they have had a hunter-gatherer existence. 「彼らは狩猟採集民の存在だった」とわかる。よって、現代人が存在する約 20 万のうち、都市の発展は約 1 万 2 千年前からだということを根拠の中心として具体的にまとめ、簡潔に述べればよい。

問 2 日本語訳の記述問題。出題される英文は（無生物主語）など英語独特の表現が多く、直訳しても日本語にならない。頭の中で意味をしっかりと咀嚼して、最低限、自然な日本語

表現になるよう心がける。英文と日本語を照合して、要素の抜けがないか吟味することも大切。

該当箇所は ❷ ❸ ❹ Our feelings and instincts 「私たちの感情や本能は」 ❺ are suited to 「適する」 ❻ [a hunter-gatherer lifestyle, 「狩猟採集民の生活様式に」 rather than a more settled agricultural-industrial one]. 「より定住的で農工的な生活様式よりもむしろ」という構造。目的語の部分が A rather than B 「B というよりむしろ A」の形で、A と B の対比を理解した上で解答が求められる。この対比により、文末の one が lifestyle を指すことは明らか。

問 3 空所選択の問題。正解の最大の根拠は、代入して前後の文脈が正しくつながること。逆に言えば、前後の内容を正しく理解することが大切になる。

空所を含む英文が段落末にあるので、空所を埋めるための判断材料はそれより前に示されていると予測できる。空所を含む英文は、❸ [A situation ❷ that we might consider an emergency today] 「私たちがこんにち緊急事態と考えるかもしれない状況は」 ❹ was ❺ (a) our hunter-gatherer ancestors. 「私たちの狩猟採集民である祖先 (a) だった」という内容。この前の内容を見てみると、❷ ❸ 以降で、「狩猟採集民は、必要なものは何でも作らなくてはならず、移動手段も両脚だけだったので、さまざまな技術を持っており、健康であり、環境に精通していた」とある。さらに、これに続く ❹ ❺ において、「こんにちの私たちが、文明の利器や必需品なしで放置されたら、どうなるだろうか？ (大変なことになるはずだ)」という反語的な内容が、仮定の状況として示されており、これは下線部の主語の言い換えにあたる。よって、「私たちがこんにち緊急事態と考えるかもしれない状況は、狩猟採集民にとってはたいしたことではない」という対比的な文脈と判断でき

る。正解は(A) a daily reality for 「～にとっての日常的な現実」。 (B) also an impossible burden for 「～にとってもまたありえない負担」、 (C) an advantage of 「～の利点」、 (D) beyond the imagination of 「～の想像を超えて」はいずれも文脈に合わない。 【語句】 reality [ri:æləti | リアリティ] ❶ 「現実」、burden [bɜ:rdən | バーデン] ❷ 「重荷、負担」、beyond [bi:jənd | ビヤンド] ❸ 「～を超えて」

問 4 空所選択の問題。選択肢はどれも、いわゆるディスコースマーカー（談話標識）と呼ばれる、文脈を左右する副詞（句）。空所前後の内容を理解し、代入して文意が正しくつながるものを選ぶ。

空所を含む英文は段落冒頭にあるので、空所を判断する材料はそれよりあとに示されていると予測する。空所を含む英文は、(b) there were ❸ [disadvantages to the hunter-gatherer lifestyle: 「(b)、狩猟採集民の生活様式への不便さがあった」 there would be ❹ [periods { ❶ } when food was in short supply; infant mortality was high; and medical care was not highly developed]]. 「つまり、食料が不足し、乳幼児死亡率が高く、医療があまり高度に発達していない時代があったものだった」という内容で、狩猟採集民の生活の否定的な面が示されている。続く文、❷ ❸ But hunter-gatherers experienced good mental health, high 'job' satisfaction, 「しかし、狩猟採集民は精神的に健康だったし、『仕事』への満足も高かったし、」 and very little jealousy, since no one had more than anyone else. 「そして、他の人よりも（財産を）多く持っている人がいなかったで、嫉妬もほとんどなかった」では、狩猟採集民の生活の肯定的な面が示されている。この文頭の But は大きなヒントで、相反する 2 つの内容を相関する表現として、yes-but 法が応用されている。これは、あるものをいったん肯定し、それとは関係があるが別のもの、あるいは反対のものを肯定したり提示したりする、定番の表現テクニック。 【暗例】 “Do you understand what I mean?” “Yes, but I also understand what he means.” 『「私の言うことがわかりますか？」 『はい、でも彼の言いたいこともわかります。』』これを本問に当てはめると、Of course 「もちろん」を yes に代用して、「狩猟採集民の生活にはもちろん不便もあった。しかし、精神的に健康で、仕事への満足も高く、(中略) ～だった。」という文脈が成立する。念のために空所の前を確認すると、段落全体で一貫して、こんにちの都市生活者の否定的な面を例示しており、続く狩猟採集民の生活の否定面とを「もちろん」でつないでも文脈に問題はない。よって、正解は(C)。 (A) as a result 「結果として」、 (B) Furthermore 「さらに」は文意が正しくつながらない。 (D) Unlikely 「～しそうでない」は形容詞なので文法的に誤り。 【文法】 There is 構文は、be 動詞の後ろに主語がくる倒置構文。would は〈過去の習慣〉を表す助動詞で、「～したものであった」の意味。なお、コロンの (:) は、具体例を述べる前に「つまり」の意味で用いられる。

問 5 内容一致の選択問題。問題文を論理的に過不足なく読み、本文から具体的な内容を述べる部分を探り当てて一読し、その内容を念頭に置いた上で、選択肢を吟味して正誤を判断する。

下線部(5)は but in other ways, they may have been richer than we can ever be. 「しかし別の点においては、彼ら（狩猟採集民）は、私たちが決してなりえないほど豊かだったのかもしれない。」の意味。ただ、同じ文の前半を見ると、Our hunter-gatherer ancestors may have been materially poorer than us, 「私たちの狩猟採集民である祖先は、私たちよりも物質的には貧しかったのかもしれない」とあるので、狩猟採集民の豊かさは「物質的以外の面」を指していることがわかる。これを踏まえて選択肢を見ていく。

(A) In big cities, it was not difficult for hunter-gatherers to find well-paid work. 「大きな都市では、狩猟採集民が賃金の高い仕事を見つけることは困難だった。」物質的な面の内容だし、記述もない。 【語句】 well-paid ❶ 「払いのいい、賃金の高い」

(B) Our hunter-gatherer ancestors had little stress in their life. 「狩猟採集民である私たちの祖先は、その生活において、ほとんどストレスがなかった。」 ❷ ❸ But urban conditions produce emotional problems that our hunter-gatherer ancestors were less likely to have, problems such as depression, loneliness, and the stress that comes from living in an overcrowded environment. 「しかし、都会の環境は、私たちの祖先である狩猟採集民がおそらく経験しなかった情緒的な問題、例えば落ち込みや孤独、人が多すぎる環境に住むことから生じるストレスといった問題を引き起こす。」に一致。物質的以外の面でもある。これが正解。 【語句】 little ❶ 「ほとんどない～〈準否定〉」

(C) The hunter-gatherer lifestyle was the most efficient way of collecting food. 「狩猟採集民の生活様式は、食料を集めるもっとも効率的な方法だった。」物質的な面の内容だし、記述もない。 【語句】 efficient [i:fɪjənt | イフィシエント] ❶ 「効率的な」、collect [kəlekt | コレクト] ❷ 「集める」

(D) The hunter-gatherer lifestyle was very productive because the tribal members knew each other very well. 「狩猟採集民の生活様式がとて生産性が高かったのは、部族のメンバーが互いをとてもよく知っていたからだ。」 狩猟採集民の生活様式の生産性を示す記述はない。 【語句】 productive [prədʌktiv | プロダクテヴ] ❶ 「生産性の高い」

問 6 本文内容との一致・不一致を選ぶ問題。内容が一致すれば ○、一致しなければ ✕ をそれぞれの選択肢の終わりにチェックしていき、最後に問題文の指示にしたがって、選択肢冒頭の記号に解答するのを習慣付けるとよい。不一致を選ぶ問題での混乱を避けられる。

(A) A hunter-gatherer way of life resulted from the development of cities. 「狩猟採取民の生活様式は、都市の発展に由来する。」 ✕ 問 1 の根拠により不正解。狩猟採集民が農耕を始めたことで、都市が発展したのである。 【語句】 result [rizəlt | リザルト] from ～ 「～に起因する、由来する」 ⇒ result in ～ 「～という結果になる」

(B) Because everyone had the same level of wealth, hunter-gatherers did not envy each other much. 「誰